

被服構成に関する研究 (第1報)

— 大裁女単衣長着を主体として —

岡 綾子・野津 哲子

(被服構成学研究室)

Studies on the Garment Construction (Part 1)
— On the Problem of Sewing Unlined Kimono —

Ayako OKA · Tetsuko NOTSU

I 緒言

和服は日本の気候風土の自然性と生活様式の必然性によって歴史をつくり、そだってきた由緒ある民族服である。現今の和服は江戸時代から明治、大正、昭和を経て今日におよんでいるが、第2次世界大戦以後は世界の距離が短縮され、わが国の社会情勢の変革と生活様式の多様化にともない、これまでの衣生活の中の大半をしめてきた和服が今は主として休養着、外出着、晴着といった範囲に縮小されつつある。これはとりもなおさず和服が機能上静的な性格をもっていて着装時のゆとりや、開放的で快い体感や更に世界に類を見ないほどの優雅さなどにいい知れぬ愛着が湧き、すてがたい存在となっている。以上の様な衣生活の中の和服のしめる位置を考える時、学校教育に於ては特に被服構成に対し、ただたんに覚える、試みると言う点にとどまることなく、更に一歩ほりさげて基本的な知識、理解を深め将来合理的な衣生活経営に対処できる能力の養成を必要と考えるものである。

被服構成(和服)の基本と考えられるものとして大裁女単衣長着をあげることができる。これはとりもなおさず製作や着装の基本となるからで、この長着をよりどころとして下着には、長襦袢、肌襦袢が、上着には羽織、コート等が用いられる。被服構成(和服)において仕立の中核目標となるものは仕立上げ寸法で重要要素因であるにもかかわらず、これが従来からおおむね慣習と惰性・勘によって設定される場合が多い。これは和服の成り立ちが着用者の体位にさほど左右されないで着用できるからで、しかもこれがいとも簡略に取扱われる例として、仕立上げ寸法の内、僅か4項目(裁ち切り身丈、肩ゆき、後幅、前幅)または2項目(8、6、8は後幅、6は前幅の意味)を示しておいて他は普遍的な寸法をあてはめ

て縫製したのも事実である。これらをだれもが着用して何の不都合も感じなかったであろうか。最近でも従来の寸法をそのまま用いている向きも少なくない。現今の日本人の体位を見る時その目ざましい向上は周知の事実である。

したがってこれまでの既成概念による寸法の設定では不合理な事態が起るのは当然である。そこで私どもは平面構成といわれる和服といえども、着用基体の綿密な観察と客観的な計測により合理的で適格な仕立上げ寸法を設定する必要性を日々痛感するものである。

今回はその目的で手近な本学学生(被服科1年生)の和服寸法および体位の実態を調査し、知り得た調査結果を考察し、まとめたので報告する。

II 研究方法

A) 本学学生被服科1年生の身体計測について

今回は被服科1年生42名について、自己の身体状況を認識させる意味において最小限度の12項目を定めて身体計測を行なった。計測時期は昭和47年5月下旬から6月上旬に行なった。

1) 計測項目

身長・体重・胸囲・頭高・膝高・肩幅・胴幅・胴囲・前腰幅・後腰幅・腰囲・乳下りの12項目

2) 計測器具

身長計・体重計・巻尺・物さし(50cm)・セルロイド板

3) 計測位置

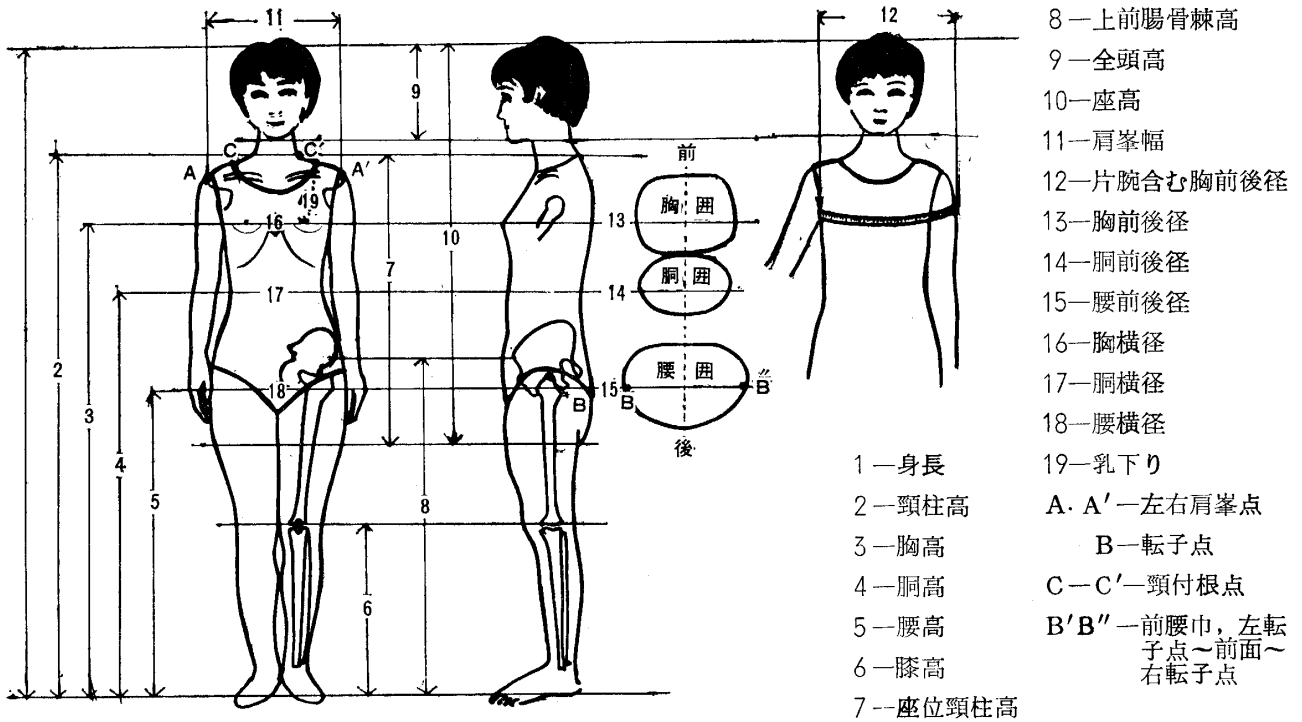
第2図に示した位置において、各項目を測定した。

身長計→身長。体重計→体重。巻尺→肩幅・胴幅・胴囲・前腰幅・後腰幅・腰囲・乳下り・胸囲。ものさし→頭高・膝高。

4) 計測時の注意

被計測者はスリッパ・ブラジャー・シャツ・ショート

第2図 計測部位



6) 計測結果の考察

(1) 計測部位相互の相関 (第3図参照)

相関係数の算出法は次式を用いた。

$$r = \frac{n(\sum f'Z'X'^2 + \sum f'y'Y'^2 - \sum f'z'Z'^2) - 2\sum f'x'x'\sum f'y'Y'}{2\sqrt{n\sum f'x'X'^2 - (\sum f'x'X')^2} \sqrt{n\sum f'y'Y'^2 - (\sum f'y'Y')^2}}$$

(注) 相関係数 …… r ・ 総人数 …… n

結果の判定基準は次のものを用いた。

r (相 関 係 数)

- .00 ~ ± .20 → ほとんど相関なし。
- ± .20 ~ ± .40 → 低い相関がある。
- ± .40 ~ ± .70 → 相関がかなりある。
- ± .70 ~ ± 1.00 → 高い相関がある。

① 身長と頭高との相関 → $r = 0.06791$, ほとんど相関がない。身長は平均値は 156.4cm , 頭高の平均値は 23.6cm で身長は $\frac{1}{6}$ 前後が頭高にあたる。したがって身長は低いものは頭高が低いとは限らない。逆に身長が高いからといって頭高が高いとはいえない。

② 身長と体重との相関 → $r = 0.9442$, 高い相関がある。身長は平均値は 156.4cm , 体重の平均値は 50.4kg で身長の高いものは体重も重くなると考えられる。

③ 胸幅と肩幅との相関 → $r = 0.6753$, 相関がかなりある。胸幅の平均値は 31.9cm , 肩幅の平均値は 36.9cm であまり差が認められなかった。すなわち胸幅の大

きいものは、肩幅も大きくなると思われる。

④ 胸幅と腰幅(前)との相関 → $r = 0.87597$, 高い相関がある。胸幅の平均値は 31.9cm , 腰幅(前)の平均値は 40.4cm でかなり差が大きい。すなわち胸幅の広いものは、腰幅(前)も広くなると思われる。

⑤ 肩幅と腰幅(後)との相関 → $r = 0.85201$, 高い相関がある。肩幅の平均値は 36.9cm , 腰幅(後)の平均値は 50.0cm でかなり差が大きい。肩幅の広いものは(後)も広くなるといえる。胸幅, 肩幅, 腰幅(前), 腰幅(後)の平均値はそれぞれ 31.9cm , 36.9cm , 40.4cm , 50.0cm で胸はかなり細い。すなわち「くびれ型」になっている。これがいわゆる現代の若い女性の胸形の傾向といつてよからう。

⑥ 胸幅と腰幅(後)との相関 → $r = 0.9421$, 高い相関がある。胸幅の平均値は 31.9cm , 腰幅(後)の平均値は 50.0cm でかなり差が大きい。すなわち胸幅の広い人は腰幅(後)も広くなるといえる。

⑦ 肩幅と腰幅(前)との相関 → $r = 0.91207$, 高い相関がある。肩幅の平均値は 36.9cm , 腰幅(前)の平均値は 40.4cm で肩幅の広いものは腰幅(前)も広くなるといえる。

⑧ 肩幅と腰囲との相関 → $r = 0.76524$, 高い相関がある。肩幅の平均値は 36.9cm , 腰囲の平均値は 89.2cm で腰囲の $\frac{1}{2.4}$ が肩幅にあたる。肩幅の大きいものは腰囲も大きくなるといえる。

⑨ 肩幅と胸囲との相関 → $r=0.75468$, 高い相関がある。肩幅の平均値は36.9cm, 胸囲の平均値は64.0cmで胸囲の $\frac{1}{2}$ が肩幅にあたる。肩幅の大きいものは胸囲も大きくなるといえる。

⑩ 身長と胸囲との相関 → $r=0.9795$, 高い相関がある。身長平均値は156.4cm, 胸囲平均値は81.9cmで身長が大きくなれば胸囲も大きくなると考えられる。

⑪ 身長と膝高との相関 → $r=0.0316$, ほとんど相関がない。身長平均値は156.4cm, 膝高平均値は42.8cmで身長の $\frac{1}{5}$ が膝高にあたる。しかし、身長が高くなれば膝高も高くなるとは限らない。逆に身長が低いからといって膝高も低いとはいえない。

⑫ 身長と乳下りとの相関 → $r=0.8469$, 高い相関がある。身長平均値は156.4cm, 乳下り平均値は22.9cmで身長の $\frac{1}{6}$ が乳下りにあたる。身長が高くなれば乳下りも大きくなる。

〔注〕 回帰(Regression)係数および回帰直線の求め方
XにもとづくYの回帰が直線的であれば、Xに対応するYの値をグラフにかくと直線がえられる。回帰係数はこの直線(回帰直線と言う)の傾きの度を示している。一般にbで示すが、 $b=0$ であれば回帰のないことを、つまりXとYが無関係であることを示す。YのXにもとづく回帰係数を b_{yx} , XのYにもとづく回帰係数を b_{xy} であらわす。

b_{yx}, b_{xy} は次のように定義される。

$$b_{yx} = \frac{\sum xy}{\sum x^2}$$

$$b_{xy} = \frac{\sum xy}{\sum y^2}$$

もちろん $x = (X - \bar{X}), y = (Y - \bar{Y})$ である。回帰直線は次の回帰等式で示される。

第3図 相関図および回帰直線

表の見方について

● → 1人, V → 2人, Y → 3人, X → 4人,

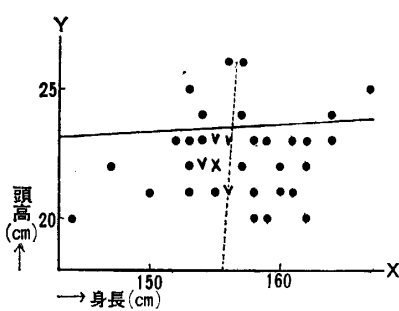
実線はXの上のYの回帰直線

点線はYの上のXの回帰直線

① 身長と頭高

$$Y = 0.03X + 18.87$$

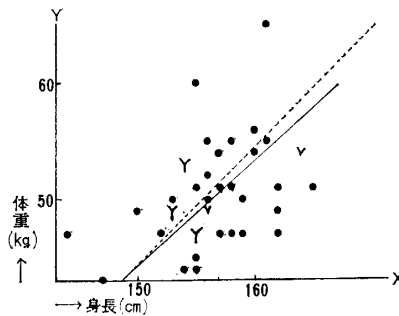
$$X = 0.15Y + 152.79$$



② 身長と体重

$$Y = 0.91X - 92.44$$

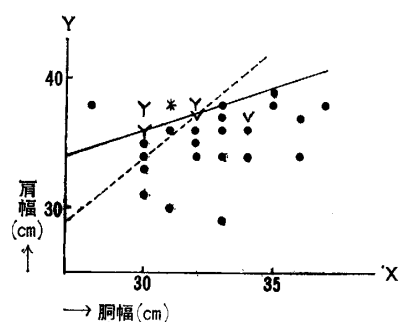
$$X = 0.97Y + 107.20$$



③ 胸幅と肩幅

$$Y = 0.77X + 12.30$$

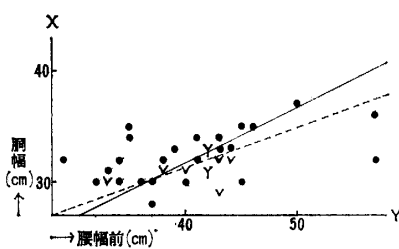
$$X = 0.59Y + 10.07$$



④ 胸幅と腰幅前

$$Y = 2.06X - 25.37$$

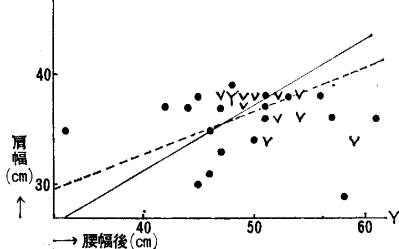
$$X = 0.37Y + 16.77$$



⑤ 肩幅と腰幅後

$$Y = 1.76X - 14.98$$

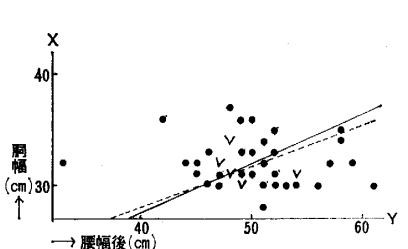
$$X = 0.39Y + 17.17$$



⑥ 胸幅と腰幅後

$$Y = 2.24X - 21.76$$

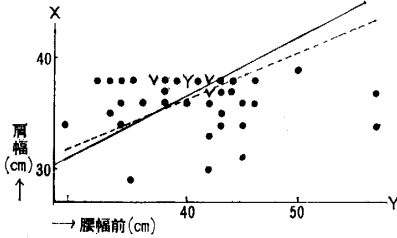
$$X = 0.39Y + 12.17$$



⑦ 肩幅と腰幅前

$$Y = 1.89X - 29.54$$

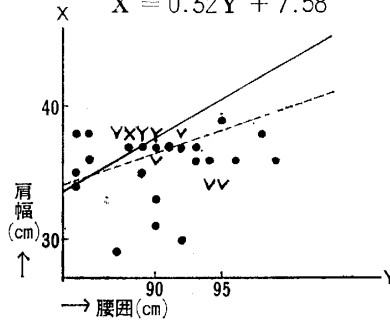
$$X = 0.43Y + 19.17$$



⑧ 肩幅と腰围

$$Y = 1.78X + 23.44$$

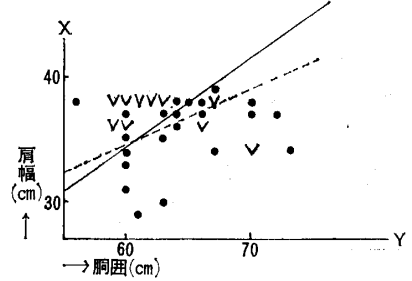
$$X = 0.32Y + 7.58$$



⑨ 肩幅と胸围

$$Y = 1.31X + 15.65$$

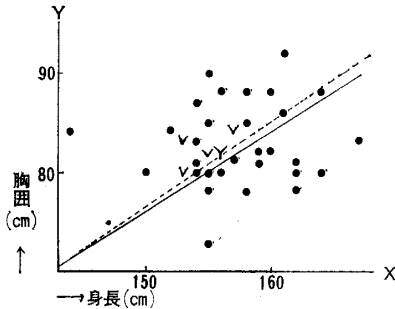
$$X = 0.43Y + 8.85$$



⑩ 身長と胸围

$$Y = 0.80X - 43.72$$

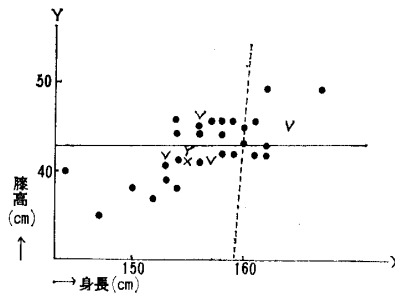
$$X = 1.19Y + 58.61$$



⑪ 身長と膝高

$$Y = -0.00X + 42.98$$

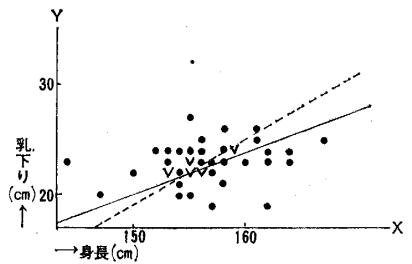
$$X = 0.04Y + 158.24$$



⑫ 身長と乳下り

$$Y = 0.39X - 38.36$$

$$X = 1.83Y + 114.44$$



$\hat{Y} = \bar{Y} + byx (X - \bar{X})$, $\hat{X} = \bar{X} + bxy (Y - \bar{Y})$
 \hat{Y} および \hat{X} は予言値または推定値と言われるものである。

$$\bar{X} = \frac{1}{N} \sum_{i=1}^N x_i$$

$$\sigma = \sqrt{\frac{1}{N} \sum_{i=1}^N (x_i - \bar{X})^2}$$

(2) 計測項目の平均値と標準偏差 (平均値 \bar{X} , 標準偏差 σ)

- ① 身長 → 平均値 156.4cm, 標準偏差 4.3cm
- ② 体重 → 平均値 50.4kg, 標準偏差 4.1kg
- ③ 胸围 → 平均値 81.9cm, 標準偏差 3.5cm
- ④ 頭高 → 平均値 23.6cm, 標準偏差 1.6cm
- ⑤ 膝高 → 平均値 42.8cm, 標準偏差 3.3cm
- ⑥ 肩幅 → 平均値 36.9cm, 標準偏差 2.3cm
- ⑦ 胸幅 → 平均値 31.9cm, 標準偏差 1.7cm
- ⑧ 胸围 → 平均値 64.0cm, 標準偏差 4.0cm
- ⑨ 腰幅(前) → 平均値 40.4cm, 標準偏差 4.3cm
- ⑩ 腰幅(後) → 平均値 50.0cm, 標準偏差 4.8cm
- ⑪ 腰围 → 平均値 89.2cm, 標準偏差 5.5cm
- ⑫ 乳下り → 平均値 22.9cm, 標準偏差 1.9cm

[注] 計測項目の平均値 (\bar{X}) 並びに標準偏差 (σ) はそれぞれの測定値 (X_i) から次の式によって求めた。

B) 本学学生被服科1年生の和服寸法調査について (第1表参照)

長さに関する8名称と幅に関する5名称合計13名称の寸法の実態を調べた。また本学で参考としている指導書についても調べ、あわせて検討を行なった。調査時期は身体計測と同じである。

1) 指導書に示された普通仕立上げ寸法 (単位cm)

袖丈65内外・袖附21~23・身八つ口12~15・袖口23・衿下75内外・肩ゆき63・衿下り23・身丈(裁ち切り)150内外。

袖幅32・後幅29・前幅23~25・肩幅31・衿幅15

[注] 必要項目のみ記述した。(長さの関係8名称・幅の関係5名称)

2) 基体の計測を基準とした主要部位の寸法割り出し方法 (岡・野津式)

裁ち切り身丈=身長または身長×1.05

袖丈=身長×0.33

袖口=身長×0.15

袖幅=(ゆき丈-2)×0.5+2

袖附=身長×0.15

肩ゆき=身長×0.42

後幅=後腰幅÷2+1

前幅=(前腰幅-4)×0.6

肩幅=(ゆき丈-2)×0.5

身八つ口=身長×0.10

衽下り=首つけ根から肩線上に3cmよる点からバストポイント(B.P)まで

衽下=身長×0.52

衽幅=(前腰幅-4)×0.4

第1表 寸法算出表

長さの関係

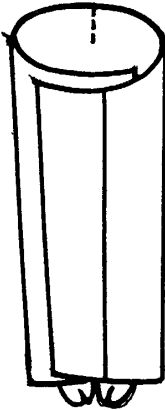
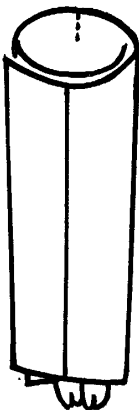
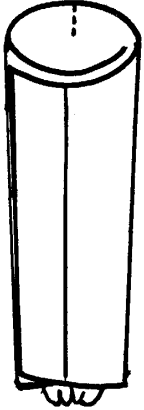
(単位cm)

項目		A	B	C	D	項目		A	B	C	D
名称						名称					
袖丈	65内外	身長	144	48.0	17.0	衽下	75内外	身長	144	74.8	0.2
			147	48.9	16.1				147	76.4	-1.4
			150	50.0	15.0				150	78.0	-3.0
			152	50.1	14.9				152	79.0	-4.0
			153	51.0	14.0				153	79.5	-4.5
			154	51.3	13.7				154	80.0	-5.0
			155	51.6	13.4				155	80.6	-5.6
			156	52.0	13.0				156	81.1	-6.1
			157	52.3	12.7				157	81.6	-6.6
			158	52.6	12.4				158	82.1	-7.1
			159	53.0	12.0				159	82.6	-7.6
			160	53.3	12.7				160	83.2	-8.2
			161	53.6	11.4				161	83.7	-8.7
			162	54.0	11.0				162	84.2	-9.2
164	54.6	10.4	164	85.2	-10.2						
167	55.6	9.4	167	86.8	-11.8						
袖付	21~23	144	21.6	1.4	肩ゆき	63	144	60.4	2.6		
		147	22.0	1.0			147	61.7	1.3		
		150	22.5	1.5			150	63.0	0		
		152	22.8	1.2			152	63.8	-0.8		
		153	22.9	0.1			153	64.2	-1.2		
		154	23.1	-0.1			154	64.6	-1.6		
		155	23.2	-0.2			155	65.1	-2.1		
		156	23.4	-0.4			156	65.5	-2.5		
		157	23.5	-0.5			157	65.9	-2.9		
		158	23.7	-0.7			158	66.3	-3.3		
		159	23.8	-0.8			159	66.7	-3.7		
		160	24.0	-1.0			160	67.2	-4.2		
		161	24.1	-1.1			161	67.6	-4.6		
		162	24.3	-1.3			162	68.0	-5.0		
164	24.4	-1.4	164	68.8	-5.8						
167	25.0	-2.0	167	70.1	-7.1						
身八つ口	12~15	144	14.4	0.6	衽下り (Cの寸法は 肩よりB.P まで)	23	144	23.0	0		
		147	14.7	0.3			147	20.0	3.0		
		150	15.0	0			150	22.0	1.0		
		152	15.2	-0.2			152	23.0	0		
		153	15.3	-0.3			153	22.7	0.3		
		154	15.4	-0.4			154	21.6	1.4		
		155	15.5	-0.5			155	23.0	0		
		156	15.6	-0.6			156	23.0	0		
		157	15.7	-0.7			157	23.0	0		
		158	15.8	-0.8			158	23.3	-0.3		
		159	15.9	-0.9			159	23.7	-0.7		
		160	16.0	-1.0			160	23.0	0		
		161	16.1	-1.1			161	24.0	-1.0		
		162	16.2	-1.2			162	24.0	-1.0		
164	16.4	-1.4	164	25.5	-0.5						
167	16.7	-1.7	167	22.0	1.0						
袖口	23	144	21.6	1.4	身丈 (裁ち切り)	150内外	144	151.2	-1.2		
		147	22.0	1.0			147	154.3	-4.3		
		150	22.5	0.5			150	157.5	-7.5		
		152	22.8	0.2			152	159.6	-9.6		
		153	22.9	0.1			153	160.6	-10.6		
		154	23.1	-0.1			154	161.7	-11.7		
		155	23.2	-0.2			155	162.7	-12.7		
156	23.4	-0.4	156	163.8	-13.8						

		157	23.5	-0.5			157	164.8	-14.8
		158	23.7	-0.7			158	165.9	-15.9
		159	23.8	-0.8			159	166.9	-16.9
		160	24.0	-1.0			160	168.0	-18.0
		161	24.1	-1.1			161	169.0	-19.0
		162	24.3	-1.3			162	170.1	-20.1
		164	24.6	-1.6			164	172.2	-22.2
		167	25.0	-2.0			167	175.3	-25.3

幅の関係

(単位cm)

項目					項目						
名称	A	B	C	D	名称	A	B	C	D		
袖幅	32	身長	144	32.0	0	肩幅	31	身長	144	30.0	1.0
			147	32.5	-0.5				147	30.5	0.5
			150	32.5	-0.5				150	30.5	0.5
			152	32.0	0				152	30.0	1.0
			153	33.3	-1.3				153	31.5	-0.5
			154	32.7	-0.7				154	30.8	0.2
			155	33.4	-1.4				155	32.0	-1.0
			156	33.5	-1.5				156	31.4	-0.4
			157	34.0	-2.0				157	32.3	-1.1
			158	34.1	-2.1				158	32.5	-1.5
			159	34.4	-2.4				159	32.5	-1.5
			160	34.7	-2.7				160	32.5	-1.5
			161	35.5	-3.5				161	33.5	-2.5
			162	35.0	-3.0				162	33.3	-2.3
			164	34.5	-2.5				164	32.5	-1.5
	167	36.2	-4.2		167	34.2	-3.2				
後幅	29	身長	144	29.5	-0.5	衿幅	15	身長	144	14.0	1.0
			147	23.5	5.5				147	14.8	0.2
			150	24.0	5.0				150	13.2	1.8
			152	23.0	6.0				152	15.6	-0.6
			153	26.0	3.0				153	13.6	1.4
			154	27.2	1.8				154	15.2	-0.2
			155	26.0	3.0				155	13.6	1.4
			156	26.1	2.9				156	13.6	1.4
			157	28.3	0.7				157	13.8	1.2
			158	26.8	2.2				158	15.2	-0.2
			159	25.0	4.0				159	14.3	0.7
			160	26.5	2.5				160	14.8	0.2
			161	27.7	1.3				161	15.4	-0.4
			162	26.5	2.5				162	14.0	1.0
			164	25.5	3.5				164	14.6	0.4
	167	24.0	5.0		167	14.8	0.2				
前幅	23 ~ 25	身長	144	21.0	4.0	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>第4図</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>第5図</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>第6図</p>  </div> </div>					
			147	22.2	2.8						
			150	22.8	2.2						
			152	23.4	1.6						
			153	21.1	3.9						
			154	22.8	2.2						
			155	20.8	4.5						
			156	22.6	2.4						
			157	20.8	4.2						
			158	22.7	2.3						
			159	21.6	3.4						
			160	22.2	2.8						
			161	23.2	1.8						
			162	21.0	4.0						
			164	21.9	3.1						
	167	22.2	2.8								

〔注〕

- A…指導書に記載されている寸法（範囲で示してあるものは最大値をとった）
- B…本学学生（被服科1年生）の体位
- C…公式計算による学生の実寸法（例．体位155cmが5人いてCの寸法がそれぞれ異なった場合はその平均値をとった。）
- D…指導書寸法——公式算出寸法

第4図、第5図は共に構成寸法が基体に不適合である。第4図は身幅が狭く衿下線が脇に届かず裾も広がりがあり、第5図は身幅が広く脇から衿下線がはみ出て、いずれも着装上美的感覚に欠ける。第6図は公式計算により算出した寸法を基にしたもので脇縫目が衿下線と合致して、美的効果がみられる。

〔注〕 第4図、第5図は構成寸法が基体に不適合である。

第5図は特に身幅が広く脇から衿下線がはみ出て着装上美的感覚に欠ける。

第6図は公式計算により算出した寸法を基にしたもので脇縫目が衿下線と合致して美的効果がみられた。

3) 和服寸法調査結果の考察

◎ 長さの関係

① 袖丈→指導書による寸法は65.0cm内外で例えば最小身長144.0cmのものが身長 $\frac{1}{2} \cdot 2$ にあたる袖丈では平常着としては適さない。平均身長156.0cmのものについてみても指導書と公式計算によるものとの差は13.0cmで指導書がかなり長い結果が認められる。最大身長167.0cmのものについてみても身長 $\frac{1}{2} \cdot 5$ が袖丈では少し長いと思われる。実験結果では身長 $\frac{1}{2}$ が適当であると思われる。

② 袖附→最小身長144.0cmのものについてみると指導書が23.0cm公式計算によるものが21.6cmでその差は1.4cm。差が小さいとはいえ袖附の寸法からいえばかなりな数値である。平均身長156.0cmのものについてみると指導書の方が公式計算による寸法より0.5cm小さい結果が認められる。最大身長167.0cmについてみても指導書と公式計算によるもの寸法とでは指導書の方が2.0cm寸法が小さい。体位を考えれば袖附寸法はだいたい私どもの実験では身長 $\frac{1}{5}$ 位が適当であると思われる。

③ 身八つ口→最小身長144.0cmのものについてみると、指導書が15.0cm公式計算によるものが14.4cmでその差は0.6cmである。平均身長156.0cmのものについてみると、指導書が15.0cm公式計算によるものが15.6cmで公式計算による数値が0.6cm大きい。最大身長167.0cmについてみると指導書と公式計算では前者の方が1.7cm小さい。私どもの着用実験の結果では身長 $\frac{1}{10}$ が適用であると思われる。

④ 袖口→最小身長144.0cmについてみると指導書の方が1.4cm長い。平均身長156.0cmについてみると公式計算によるものが0.4cm長い。最大身長167.0cmについてみると指導書と公式計算によるものとは後者の方が2.0cm長い。私どもの着用実験の結果では身長 $\frac{1}{15}$ 位が美的な感覚としてよいのではないかとと思われる。

⑤ 衿下→最小身長144.0cmについてみると指導書による寸法は75.0cm内外、公式計算によるものは74.8cmで前者の方が0.2cm長い。平均身長156.0cmについてみると指導書と公式計算によるものとは後者の方が

6.1cm長い。最大身長167.0cmについてみると指導書と公式計算によるものとは後者の方が11.8cm長い結果になっている。衿下は着用の際によく目につくところなので体位を考慮に入れると身長 $\frac{1}{2}$ 強あった方が美的効果が大である。(着用実験の結果は身長 $\frac{1}{5}$ 位がよい)

⑥ 肩ゆき→最小身長144.0cmについてみると指導書は63.0cm公式計算によるものでは60.4cmで前者の方が2.6cm長い。平均身長156.0cmについてみると指導書と公式計算によるものとは前者の方が2.5cm短い。最大身長167.0cmのものについてみると指導書が63.0cm公式計算によるものが70.1cmで前者の方が7.1cm短い。これは体位を余り考慮しない従来の寸法によったものと思われる。

〔注〕 布幅の足りない場合は布の限界まで考慮する。

⑦ 衿下り→最小身長144.0cmについてみると指導書と公式計算によるものそれぞれ差がなかった。最大身長167.0cmについてみると指導書の方が1.0cm長い。体位を考慮に入れると、肩よりB・P(バストポイント)までの寸法が着用してよよいと思われる。

⑧ 身長(裁ち切り)→最小身長144.0cmについてみると指導書は150.0cm内外、公式計算によるものは151.2cmで後者の方が1.2cm長い。平均身長156.0cmについてみると指導書と公式計算によるものとは後者の方が13.8cm長い。最大身長167.0cmについてみると指導書と公式計算とでは後者の方が25.3cm長い。指導書については最近の体位から考えるとやや短いように思われる。着用して美しいと感じられるのは身長または身長 $\frac{1}{10}$ の長さが適当と思われる。

◎ 幅の関係

① 袖幅→最小身長144.0cmについてみると指導書、公式計算によるものとも差が認められない。平均身長156.0cmについてみると指導書が32.0cm、公式計算によるものが33.5cmでその差は1.5cm。すなわち公式計算によるものが長いことが認められる。最大身長167.0cmについてみると指導書と公式計算によるものとの差は4.2cmで後者が長い。現状の体位を考えると私どもの実験した寸法が適当ではないかと思われる。

② 後幅→最小身長144.0cmについてみると指導書が29.0cm公式計算によるものが29.5cmでその差は0.5cm。平均身長156.0cmについてみると指導書が29.0cm公式計算によるものが26.1cmでその差は2.9cm。腰幅後の平均値が50.0cmであるから、体位を考慮すると私どもの実験寸法が適当であると思われる。体位の小さいものは前者の寸法では幅が広すぎて着ごこちもよく

ないし後姿に大切な美的Smartさも失なわれる。

③ 前幅→最小身長144.0cmについてみると指導書が25.0cm公式計算によるものが21.0cmでその差は4.0cm。平均身長156.0cmについてみると指導書25.0cm公式計算によるものが22.6cmでその差は2.4cm。最大身長67.0cmについてみると指導書が2.0cm公式計算によるものが22.2cmでその差は2.8cmである。腰幅前の平均値は40.4cm。体位を考慮した場合は公式計算による方がよい。いいかえれば指導書による寸法では着用実験の結果身幅が広くて脇線からはみ出る(第5図参照)公式計算によるものは脇縫目が衿下線と合って着装上美的な効果がみられた。(第6図参照)

④ 肩幅→最小身長144.0cmについてみると指導書は31.0cm公式計算によるものは30.0cmその差は1.0cm。平均身長156.0cmについてみると指導書は31.0cm公式計算によるものが31.4cmで後者が0.4cm長い。最大身長167.0cmについてみると指導書によるものが31.0cm公式計算によるものが34.2cmで後者が3.2cm長い。肩幅の平均値は36.9cmである。したがって着用実験の結果は後の方が体位にうまく合っていた。

⑤ 衿幅→最小身長144.0cmについてみると指導書は15.0cm公式計算によるものは14.0cmでその差は1.0cm。平均身長156.0cmについてみると指導書が15.0cm公式計算によるものが13.6cmで後の方が1.4cm狭い。最大身長167cmについてみると指導書が15cm公式計算によるものが14.8cmでその差は0.2cm指導書より公式計算による数値が小さいのは体位により算出したためである。着用実験の結果は衿線が前身幅の3/5の線

上にあり美的な感覚としては効果があったと思われる。

Ⅲ 結 言

本学学生の和服寸法および体位について実態調査を行ない、その資料に基きそれぞれの計測部位の相関関係、更に体位による計測値を用いて合理的な和服寸法を簡便に求める方法を検討した。

その結果

(1)それぞれの体位の相関の高いものは①身長と胸囲②身長と体重③胸幅と腰幅後④肩幅と腰幅前⑤胸幅と腰幅前⑥肩幅と腰幅後⑦身長と乳下り⑧肩幅と腰囲⑨肩幅と胸囲等である。

相関がかなりあるものとしては①胸幅と肩幅である。

ほとんど相関がないものは①身長と頭高②身長と膝高である。

したがって着ごちがよく、美感を伴う和服寸法を設定するためには体位を考慮した合理的な和服寸法を見出すことが大切である。

(2)合理的な和服寸法を簡便に求める方法として、岡・野津式の公式計算による和服寸法設定数値を用いて製作した和服を着用実験によりみると、それぞれの体位によく合い、私どもの考察した寸法設定はかなり効果をあげ得たと思われる。

参 考 文 献

- 1) 米沢光他数名：裁縫精義東洋図書 66 (1927)